

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「社会を生き抜く力」を持つ生徒を育成し、地域から信頼される学校づくりをめざす。

- 素直で柔軟な思考を持つ「しなやかさ」と我慢づよくへこたれない「ねばり強さ」をあわせ持ち「自立して社会で生きていける人間」を育成する。
- デュアル総合学科と普通科を併置して、多様な学びを実践するとともに、地元小・中学校、大学、デュアル協力企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して実践的なキャリア教育・職業教育を推進する。
- 総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

2 中期的目標

(1) 学習活動の充実

- ① 普通科・デュアル総合学科それぞれの特長を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、授業力向上に取り組む。
 - ② 普通科における「基礎学」をはじめとする学習活動の充実、開設 2 年目を迎えるデュアル総合学科における実習や教科設定科目の学習内容の充実を図る。
- * 学校教育自己診断における生徒の授業満足度を（平成 23 年度 47.9%、平成 25 年度 51.8%）を、平成 26 年度には 60%以上にする。

人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり

- ③ 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導を通じて、生徒の「規範意識の醸成」と「基本的生活習慣の確立」を図り、中途退学及び原級留置を防止する。
- ④ 保護者との連携・協力体制を強め、担任・学年団と生徒指導部が連帯して、計画的・組織的に面談、懇談をはじめ、日々の連絡強化に努める。
- ⑤ 各中学校との連携を密にし、個々の生徒指導に活かす。
- ⑥ ケース会議等を含めて教育相談委員会の機能を充実させ、個々の生徒の状況を把握し共有する。
- ⑦ 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- ⑧ 全教職員が同和教育をはじめとした人権教育の理念を尊重して、その共通理解を深め教育実践への反映に努めるとともに、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、人権教育委員会が中心となり、全教職員が一体となって人権教育を推進する。
- ⑨ 多数の中国帰国生徒や外国人生徒が在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化共生教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。
- ⑩ 人権教育委員会に支援教育コーディネーターを置き、支援教育の充実を図る。

(2) キャリア教育・進路指導の充実

- ① 三年間を見通したキャリア教育（勤労観・職業観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。
 - ② 「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さ」を理解し、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践する。
 - ③ 教科学習はもとより、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」やホームルーム活動などで「社会人講話」などの機会を設けながら、あらゆる教育活動が生徒自身の「自己発見」の機会となるよう取り組む。
- *平成 24 年度の進学率 27.0%を平成 27 年度には 35%に、進路未定率 25.5%を 20%以下にする。

(3) 教育活動・教育内容の発信と地域連携の強化

- ① 教育課程の充実を図り、実習企業や施設との協力・連携強化を推進しながら完成期の三年間を見通したデュアル総合学科の教育内容を完成するとともに、教育活動の体制を構築する。
- ② インターンシップやデュアル実習に向けて、現在の協力企業・施設との連携を継続するとともに、協力・連携先を拡大する。
- ③ 新しくスタートしたデュアル総合学科の情報をはじめとした学校のさまざまな取り組みや情報を、保護者、中学校、地域、府民に向けて発信し、学校イメージの向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>全項目の評価が低下した。例えば「学校に行くのが楽しい」は、56.6%（←60.6%）。体育祭後のアンケートでは満足度は全学年平均 93%であったにもかかわらず、自己診断では「学校行事は楽しい」は 51.3%。「生活指導は納得できる」は 1 年生が 29.6%。今年度から入室許可証制度やメロディチャイムを導入し遅刻指導を強化したり、制服着用指導を強化したりと生徒指導に関する取り組みを前進させたことも一因と考えられ、指導の定着を図りながら生徒にも達成感と肯定感を持たせる工夫が必要である。そのほか、「授業はわかりやすく楽しい」44.4%（←51.8%）。12 月に全ホームルーム教室にプロジェクトが設置され、理科実験を増やすなど新たな授業改善に取り組み始めたところであり、授業改善の取り組みは重要課題である。</p> <p>【保護者】</p> <p>昨年度よりも回収率が倍増し、約 1/3 の保護者に提出していただいた。「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」70.0%（←51.5%）「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」68.2%（←60.0%）「文化祭・体育祭宿泊行事などの学校行事に、子どもは積極的に参加している」82.8%（←77.2%）など多くの項目で肯定的意見が増加している。一方「子どもは授業が楽しくわかりやすい」と言っている」45.0%（←40.0%）が増加はしているものの低く、生徒結果と併せて授業改善の取り組みの強化が必要である。</p> <p>【教職員】</p> <p>今年度は教職員の回収率 100%となった。肯定的評価の高い項目は「人権尊重の姿勢」86.1%、「学校行事の工夫・改善」84.8%、「校長の学校運営理念表明」90.8%、一方「カウンセリングマインド」や「教育相談体制」について、また「教職員の学校運営参加」についての項目の評価がやや低く、今後の改善方策が必要と考える。</p>	<p>第 1 回学校協議会（6 月 20 日）</p> <p>新入生を含む学校の状況と今年度の学校教育計画について説明。新しく導入した「入室許可証制度」や学校経営推進費による全ホームルーム教室へのプロジェクト設置をきっかけとする授業改善についても説明し、授業見学のため校内巡視、その後座長を中心に見学の感想や提言をまとめていただいた。主な意見として「授業や校内の状況が落ち着いている」「教員も生徒も和やかな雰囲気」、一方で「めあてが明確な全員参加型の授業を行ってほしい」「生徒一人ひとりに視点を変えた授業を」など、さらなる授業改善への提言がなされた。</p> <p>第 2 回学校協議会（11 月 20 日）</p> <p>デュアル発表会を見ていただいた後、引き続き協議会を開き、「発表内容が年々よくなっている。デュアルの取り組みが成功している様子がよくわかる」「初めて見に来られた企業が感動されていた」といった高評価をいただいた一方、「舞台上上がる生徒が一気に増えたので（昨年度の 3 倍）例年と違う印象を受けた」という声も複数あった。また「今後さらに発表会をたくさんの方が見て、布施北のデュアルを理解してもらえるよう、案内発送増の工夫を」という意見もいただいた。</p> <p>第 3 回学校協議会（3 月 6 日）</p> <p>学校教育自己診断結果をもとに協議。生徒指導の取り組み推進について保護者、地域から賛成の声をいただいたほか、回収率についても教職員 100%を評価された。今後については、中学校との連携を進路指導の面や進級指導の面でも強化してほしいという意見や、人権教育を大切にほしいことから複数担任制導入に期待するといった意見、デュアル総合学科が来年度完成年を迎えるにあたって、さらに協力を惜しまないという声をいただいた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習活動の充実	<p>(1) 基礎学力充実に向けた取組み ア 少人数展開による丁寧な指導 イ ICTを活用した授業改善の取組み ウ 研究授業等による校内研修の実施 エ 外部講師等の活用 (2) デュアル総合学科2年次の実習活動と選択科目の充実</p>	<p>(1)ア 1学年の少人数クラス展開(「英語」・「数学」・「芸術」)やTT授業展開(「基礎学」・「情報」)を通じて「授業定着」「学ぶ姿勢」「学ぶ力」の育成に取り組む。 イ 「学校経営推進費」事業によるICT教育環境整備を活用し、校内チームによる研修を実施し、授業改善に取り組む。 ウ 校内での研究授業のほか、府教育センター「パッケージ研修支援」事業を活用した校内研修を実施する。 エ 企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設けたり、外部講師による講話を経験することで、生徒の学ぶ意欲の向上及び個々人の進路設計への意欲を促進する。 (2)・実習出席率が高くなるよう指導する。 ・選択科目における各種検定合格をめざす。</p>	<p>(1) ア～エ 昨年度比目標 ・進級卒業率5%増 ・長期欠席生徒の10%減 ・中途退学生徒の10%減 ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度H25年度51.8%を60%以上にする。 (2) ・実習出席率70%以上 ・検定合格率70%以上</p>	<p>(1)ア 少人数クラス展開やTT授業、学習指導週間遅刻指導を強化し、遅刻者数約20%減、長期欠席者数17%減、留年者数33%減となった。中退者の減少につなげたい。(◎) イ ICT教育環境整備を機に、校内チームによる活用研修や活用授業公開などを行った。 ウ パッケージ研修支援事業を活用し、全体研修を実施したほか、校内公開授業週間も設けたが、生徒の授業満足度は51.8%→44.4%に。授業内容の改善に取り組む必要がある。(△) エ 1・2年生で企業・専門学校・大学見学を実施したほか、外部講師による進路関係の講話も実施したが、生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」は64.7%→55.3%(△) (2)実習出席率は2年生が88%、3年生が90%であった(◎)。</p>
2 人権教育を基盤とした魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒指導の充実 ア 1学年の少人数クラス展開による丁寧な指導 イ 保護者・中学校との連携や、校内連携による、厳しく、粘り強く、温かい「全校チームでの生徒指導」 ウ 教育相談体制の強化 (2) 魅力ある学校づくり エ 生徒会活動の活性化 オ 学校行事・特別活動の活性化 (3) 人権教育の推進力 カ 教職員の人権教育への理解のさらなる促進 キ 多文化共生教育の推進 ク 支援教育の推進</p>	<p>ア 1学年の少人数クラス展開を実施することで、担任・副担任によるきめ細かな生徒把握・生徒対応を行う。 イ ・丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図るほか、随時中学校とも連携し、校内で情報共有する。 ・全教員による中学校訪問を実施し、中高連絡会を開催する。 ・保護者の学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛ける。 ウ 定期的な生徒の状況把握に努めるとともに、スクールカウンセラー、教育相談実習生と協力し、配慮生徒のケース会議や教職員研修を実施する。 エ 生徒会活動を活発にし、活動状況を校内・校外に発信する。 オ 教職員が一致して学校行事や特別活動に力を注ぐことで、生徒の課外活動を盛んにし、生徒の居場所づくりを進める。 カ 人権教育をテーマに教職員研修を実施する。 キ 中国帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切に、周囲の生徒との交流の機会を設ける。 ク 人権教育委員会及び教育相談委員会での生徒情報共有と、「個別の支援計画」「個別の指導計画」の作成</p>	<p>ア～ウ 昨年度比目標 ・進級卒業率5%増 ・長期欠席生徒の10%減 ・中途退学生徒の10%減 ・遅刻・欠席生徒数の10%減 ・保護者向け学校教育自己診断における学校の生徒指導方針への肯定的評価を5%増 ・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導への肯定的評価50%台 エ～オ ・生徒会活動の発信(HP及びかわら版等の広報誌作成) ・学校行事出席率の10%増 ・部活動加入率の5%増 カ・人権研修の実施 キ・交流機会の企画・実施 ク・「支援計画」「指導計画」の作成</p>	<p>ア～ウ ・少人数クラス展開し、きめ細かな家庭連絡に努めた結果、保護者によるアンケート回答数が倍増したほか、「学校は保護者の相談に適切に対応してくれる」が51.5%→70%に増加した。生徒指導への肯定的評価は0.9%増にとどまったことから、さらに保護者との連携に努め、理解を得たい。(○) ・中学校訪問を全員で行い、中高連絡会も実施。平素より事象のたびに中学校との連携は図っている。(○) ・入室許可証制度導入や制服指導を強化し、遅刻約20%減と成果は出ているが、生徒による生徒指導への肯定的評価は約10%減。取組み成果を伝えていく。(○) エ～オ 1年生全員クラブ加入期間・クラブ体験を実施し、1年生部活動加入率は26.2%→33.3%に上昇。(○)生徒会活動は「おはよう運動」「昼休み放送週間」など取り組んでいる。(○)行事出席率は体育祭が9.9%、文化祭が13.5%増加(○) カ 人権研修は教職員全体研修を6回、学年対象を6回、初任者対象を別に2回実施。(◎) キ 多文化理解教室での交流を2回実施。(◎) ク 要支援の生徒の把握及びケース会議を持つことができた。また、「個別の教育支援計画」についても保護者と連携の上作成できた生徒もいる。(○)</p>
3 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) ア 生徒指導と連携した取組み イ 学習活動と連携した取組み (2) ウ 3年間を見通した体系的な取組み エ デュアルシステムでの実績を活かした体験的な取組み</p>	<p>ア 集会や校外学習等を通して規範意識を醸成する。 イ 学習活動の中で「授業規律」を大切にする。 ウ・1年時よりキャリア教育の充実のために職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。 ・面接練習や個別面談などのさらなる充実を図る。 エ 外部機関や事業所等との連携の強みを活かし、インターンシップなどの体験的なキャリア教育を実践する。</p>	<p>ア～ウ 昨年度比目標(卒業生全体に対する割合) ・学校斡旋就職生徒5%増 ・進路未定生徒10%減 ・就職内定率5%増 ・進学率5%増</p>	<p>ア～ウ 進路結果は途中段階であるが、進学率5.5%増、学校斡旋就職内定率8.2%増、未定率4.6%減。(○) ウ～エ 1年生…職業適性検査、インターンシップ(デュアルのみ)、ハローワーク見学(デュアルのみ)、社会人講話、進路説明会、企業見学 2年生…進路説明会、大学・専門学校見学、企業見学、面接練習 3年生…面接練習、進路面談、職場見学等 キャリア教育のさまざまな機会を設けている。(◎)</p>
4 発信と地域連携の強化	<p>(1) 地域等との連携 ア デュアル総合学科の教育実践 イ 連携先の拡大 (2) 情報発信の活性化 ウ 中学校や保護者、地域、府民への情報発信</p>	<p>ア デュアル総合学科2年目を迎え、実習及び選択科目の内容充実を図る。 イ デュアル総合学科2年時・3年時の実習先を確保する。 ウ ・保護者向けメール配信の充実 ・ホームページの内容充実のほか、学校案内、ニュース等による情報発信を行う。</p>	<p>ア ・デュアル総合学科3年間の学習計画の完成 イ・新規連携協力企業60社以上の確保 ウ・PTAメール登録数の15%増 ・学校紹介かわら版の作成 ・学校案内パンフと学校案内PPのリニューアル ・学校説明会参加者20%増</p>	<p>ア カリキュラムが完成したが、今後内容のブラッシュアップを図る必要がある。(○) イ 新規企業開拓は進んだが、連携企業の合計数は約30社増にとどまっている。(△) ウ ・メール登録数130件→145件で、さらに呼びかける。(○) ・学校紹介ニュースは4号作成。(○) ・学校案内と説明会用プレゼンテーションソフトはリニューアル。(○) ・説明会は開催回数を増やし、参加者数は昨年度とほぼ同数。説明会の内容の充実と情報発信強化を図る。</p>